

Ⅱ 国語科の問題と 結果・分析

1 出題のねらいと評価

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 国語への関心・意欲・態度 |
| 2 | 話す・聞く能力 |
| 3 | 書く能力 |
| 4 | 読む能力 |
| 5 | 言語についての知識・理解・技能 |

大問・領域	小問	設問のねらい		評価				
				1	2	3	4	5
① 読むこと (説明的文章)	問1	問いかけの文に注目して文章の展開を読み取ることができる。					○	○
	問2	(1)	文章の叙述に即して内容を正確に読み取ることができる。				○	
		(2)					○	
	問3	段落相互の関係を考え文章を正確に読み取ることができる。					○	○
	問4	文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。					○	
② 言語事項	問1	二字の熟語の構成についての理解を深め、関心をもつことができる。						○
								○
	問2	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けることができる。						○
								○
	問3	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年の漢字に配当されている漢字を漸次書くことができる。						○
								○
								○
								○
								○
	問4	二字の熟語の構成についての理解を深め、関心をもつことができる。						○
								○
							○	
③ 書くこと	問	グラフを適切に読み取り、それをもとに自分の意見をもち、効果的に書くことができる。		○		○		○

2 正答と主な誤答例

大問・領域	小問	正 答		主な誤答例
① 読むこと 説明的文章 の読解	問1	それほどまでに人が読書をするよ さは、一体どんなところにあるの でしょうか。（完全正答）		書店に行くと～買っていきます。 図書館ではもちろんですが～見かけま す。 （無答）
	問2	(1)	3（段落）	4（段落）
		(2)	2（段落）	4（段落） 5（段落）
	問3	ウ（しかし）		エ（つまり） イ（だから）
	問4	イ（心のおくの自分と対話し、 人生を豊かなものに～）		ア（情報を知ることや想像を楽しむこ とが～）
② 言語事項	問1	(1)	ウ（反省）	ア（理解） イ（行動）
		(2)	イ（活発）	ウ（反省） ア（保健）
	問2	(1)	イ（植木）	ア（上着）
		(2)	イ（鉄きん）	ア（鉄道）
	問3	(1)	ととの（える）	かんが（える） そろ（える） とな（える）
		(2)	あた（り）	まわ（り）
		(3)	やしな（う）	よ（う） （無答）
		(4)	約束	（誤字）
		(5)	散（る）	落（る） （無答）
	問4	強弱		弱強
		明暗		暗明 明敗 明⇄暗
		勝敗		勝→敗 勝・敗
③ 書くこと	問	（略）		

3 結果の考察と分析「読むこと」(説明的な文章)

平均正答率 71%

単位：%

大問・領域	小問	問 題	正 答	市の正答率	自校の正答率
① 読むこと 説明的文章	問1	この文章の問いの文を第1段落から見つけ、解答用紙に書きぬきましょう。	それほどまでに人が読書をするよさとは、一体どんなところにあるのでしょうか。	74	
	問2	この文章は、読書のよさをいくつか述べていますが、次の(1)、(2)の場合、どの段落の内容に当てはまるでしょうか。 当てはまる段落の番号を、文中の1～5の中から選び、その番号を解答用紙に書きましょう。	(第) 3 (段落)	87	
			(第) 2 (段落)	71	
	問3	第4段落の にはどんな言葉が当てはまるでしょうか。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きましょう。	ウ (しかし)	68	
	問4	この文章で、筆者が述べている読書のよさについてまとめたものとして、最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きましょう。	イ (本を読むことを通して心のおくの自分と対話し、人生を豊かなものにすることができる。)	55	

(1) 結果の概要

【問1】について

- 「この文章の問いかけの文を第1段落から見つける」という設問は、比較的易しい設問ではないかと予想していたので、正答率は74%と予想通りの結果となった。
- 7%の児童が無解答という結果から、設問の「問いかけの文」という言葉の意味の理解ができていないことと、「～でしょうか。」という語尾に着目して見つけることができなかったと思われる。
- 説明的な文章を読む際に、どのような話題が提示されているのか、どのような文章構成になっているのか等を意識しながら読み取る力がやや不足している傾向がみられる。

【問2】について

- (1) 87%(2) 71%と、概ね良い正答率となっている。どちらの設問も文章の叙述に即して内容を正確に読み取れているかを調査する設問であるが、(1)と(2)の正答率に若干の開きがみられた。その理由は、(1)は、第3段落の「魔法や妖精」という言葉から「ハリーポッター」につながりやすかったことと、児童の物語や小説などの読書経験の差異からきているのではないかと考えられる。

【問3】について

- 正答率68%という結果となった。段落相互の関係を考え正確に文章を読み取っていくためには、接続語に着目していく必要がある。第4段落の場合は、第2、3段落を受け、筆者が「読書のよさ」がまだ他にあることを読み手に伝えるために逆接で表現している。そこで、おのずと「しかし」が当てはまることが分かると考えられる。接続語の種類や役割を押さえ、文脈に応じて使い分けができるような指導に力を入れていきたい。

【問4】について

- 正答率55%と「読むこと」の設問の中で1番低い結果となった。この文章の中で、筆者は、「読書のよさ」をいろいろな視点から述べているが、筆者が1番読み手に伝えなかったことをとらえるためには、この文章の要旨を正確に理解する必要がある。
- 4つの選択肢から、筆者が読書のよさについてまとめたものとして最もふさわしいことを文章の叙述を根拠にして選ぶことができていない児童が多い。また、最後まで長文を読み取り内容をとらえることに慣れていない児童がいることも伺われる。

(2) 指導のポイント

目的や意図に応じて、適切に文章を読み取る能力の育成をするために、授業の中では、何のためにその文章を読むのか、読むことによってどういうことを目指すのかといった目的を明確にした指導が必要である。また、段落を構成表に表して把握しながら読み進めたり、中心になる語を押さえて要約したりする等、内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができるように留意して指導する必要がある。

さらに、読書活動を推進し、新聞や雑誌記事を含め、説明的な文章をはじめとした幅広い読み物を読む機会を充実したい。また、学習した教材に関連する読書教材を読む時間を設定し、速読をして要旨をまとめる活動なども効果的である。そして、読んで理解したことを自分の知識や経験と関連付けたり意味付けたりして自分の考えを書かせるなど、「読む力」と「書く力」を総合的に高めていけるような単元構成の工夫を図りたい。

単位：％

大問・領域	小問	問 題		正 答	市の正答率	自校の正答率
② 言語事項	問1	(1)	自分の行いをふり返って考えてみること。	ウ (反省)	81	
		(2)	いきいきとして元気のいいようす。	イ (活発)	76	
	問2	(1)	ア 上着 イ 植木 ウ 雨天	イ	91	
		(2)	ア 鉄道 イ 鉄きん ウ テッサン	イ	42	
	問3	(1)	体の調子を 整 える。	ととの (える)	92	
		(2)	辺 り を見まわす。	あた (り)	82	
		(3)	子どもをりっぱに 贅 う。	やしな (う)	57	
		(4)	<u>ヤクソク</u> を守る。	約束	74	
		(5)	花が ち る。	散 (る)	60	
	問4	口の中から、反対の意味をもつ漢字を二つ組み合わせて、熟語を三つ作りましょう。(順不同)		明暗	83	
				強弱	71	
				勝敗	77	

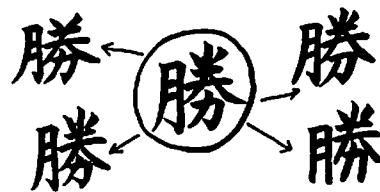
(1) 結果の概要

【問1】(1)「反省」という言葉をはじめ、選択肢にした「理解」「行動」「説得」の言葉も、学校生活の中で使用される機会が多いので、正答率が8割を超えたと考えられる。(2)については、「健全」を選んだ誤りが多い。設問の“元気のいい”という部分が健康をイメージする「健全」と結びついたものと思われる。

【問2】(1)の正答率が92%と高く、国語辞書が音節の50音順に配列されていることは十分に理解されている。これに対して(2)の正答率は42%。一音節目、二音節目が同じなら三音節目で比べれば答えが分かるはずであるが、誤答のほとんどが「ア」の「鉄道」であることから、濁音・促音の配列が正しく理解されていないことが伺える。

【問3】(2)の「辺り」を「まわり」と読み違えるものが目立った。(3)と(5)の正答率が57%、60%と低い。さらに(3)の「養う」の読みは、無解答が20%あった。「養」は4年生の配当漢字であるが、教科書の文中に「養う」という言葉で使われるのは5年生になってからであり、子どもの日常での使用頻度も低いための結果であったと考えられる。(5)の「散る」という漢字の書き取りは、何とか似たような漢字をあてた誤答が多い。習ってから実際に文脈の中で書いて使うことが少なく、定着しにくい漢字であったと考えられる。

【問4】「暗明」「弱強」と、対の漢字を選択できても順序が違ふ誤答が30%。また、正しい順序で並べても、2つの漢字の間に→や・などの記号を入れてしまった例も少なくない。さらに、漢字が提示されているのにもかかわらず、漢字を正しく書けず誤答となっている例が目立った。



正しい漢字が書けない例

(2) 指導のポイント

【新出漢字・熟語の指導】

文脈に合わせて正しく読めるようにするとともに、漢字一つ一つの持つ意味やその由来についても触れる。対になる言葉の対比、幾つかの新出漢字を用いた意味の通じる短文作り等をさせる中で、文脈に即して適切に漢字を使えるようにする。間違えやすい漢字や言葉については、誤答例を示し、印象に残るようにさせたい。硬毛の指導を関連付けて指導していくことにも配慮したい。また、学習する言葉の中でどの言葉がなじみが薄く定着しにくいかを把握し、意図的に聞いたり見たり使ったりする場面を増やす配慮したい。そういう言葉を意図的に聞き慣らし意識して教え使い慣らすようにして、文脈に合わせて読んだり書いたりできるようにさせたい。

【国語辞書の活用】

指導計画では、3年生の上巻で5月の中旬に指導することになっているが、一通りの使い方についての知識を得ても、辞書を繰り返し使うこと無しには身に付かないと考えられる。ただし、問2の(2)にある「鉄道」「鉄きん」のどちらが先に出てくるか、というようなことに指導の重点を置くのではなく、速く引けるようにさせ、辞書を道具として使いこなせるようにすることを大切にしたい。様々な学習の中で辞書を活用して語句や漢字の持つ意味を明確にしたり、字形を確かめたりすることが、授業展開の妨げにならず自主的に行えるようにさせたい。そのためには、他教科の学習の中でも、言葉にこだわって辞書を使うことを体験させていくことが大切である。

大問・領域	小問	問 題	正 答	市の正答率	自校の正答率
③ 書くこと		ひろ子さんは、社会科の学習で清そう工場を見学しました。そのときの資料に、次の『さいたま市のごみの量のふえ方』のグラフがありました。 このグラフをもとに、「ごみの量をへらすためにわたしたちにできること」についてグループで話し合いました。そして、話し合ったことをもとに、「ごみの量をへらすために自分にできること」について発表をすることになりました。 【ひろ子さんのグループの話し合いで出された意見】 「ごみの量をへらすためにわたしたちにできること」 ○リサイクルをする。 ○最後まで物を大切に使う。 ○余計な物を買わない。 次の①～④に注意して、「ごみの量をへらすためにわたしたちにできること」についての発表原稿を、百字ぐらいで書きましょう。 ※ 注意する点 ① 題名や名前は書かないで、一行目から本文を書きましょう。 ② はじめに、グラフからどのようなことが分かるか書きましょう。 次に、ひろ子さんのグループで出された意見をもとにして、自分にできることを書きましょう。 ③ 文末を敬体（「～です。」「～ます。」）にしましょう。 ④ 読み返して文章を直したいときは、二本線（＝）で消したり、行間に書き加えたりてもかまいません。		条件 1 78 条件 2 82 条件 3 75	

単位：％

(1) 結果の概要

昨年度と比較すると、文章に書くことのみに着目すれば16ポイントも正答率が上がっている。これは、書く内容について明確に条件設定をしたため比較的容易に書くことができたと考えられる。以下、3つの条件に照らし合わせて分析する。

①「グラフからどのようなことがわかるか書きましょう」について

正答率が78%という高い結果となり、グラフを読み取ったことから考えを書くことは概ねできているといえる。ただ、誤答例には、グラフの読み取りができずに適切に書けない傾向が見られた。また、グラフの数値を比較して自分なりに分析しているにもかかわらず、「分かったこと」まで表現できない解答も見られた。

②「グループで出された意見をもとにして、自分にできることを書きましょう」について

正答率が82%と最も高い結果であった。「できること」の例を示した上で自分の考えを明確にしていく事柄であったため、容易に書くことができたと思われる。これは、設問の意図を適切につかみ、事象を客観的に書くとともに、その事象と感想や意見との関係を十分とらえて書くことができていたといえる。誤答例では、設問を正確に読み取れていない内容が見られ、書く目的に合わせて必要な事柄や中心になる事柄を決めて書くことが困難であったように思われる。

③「文章を敬体（～です。～ます。）にしましょう」について

正答率が75%となった。注意する点のみならず設問に「発表原こう」ということばも含まれているため、比較的容易に解答することができたと思われる。誤答例では、文章が自分の考えの羅列になり、まとまった文章を構成できない児童が見られ、句点の正しい使い方ができない傾向もあった。

(2) 指導のポイント

「目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書く」には、何のために、誰に向けて、どのような事柄を書くのかということに加えて、どのように書くのかという方法意識も明確にもって書くことができるよう指導していく必要がある。また、表現しようとする中心的な内容を明確にして、根拠となる事柄や具体例などを適切に選択し表現する能力の育成も必要となる。そして、その文章や表現を適切であるか評価するためには、推敲したり友達と読み合ったりする自己評価や相互評価の場を意図的に位置付けて、児童自身の学びと評価の一体化を図った学習活動が大切である。

具体的な指導では、お礼や案内などの手紙文や日記や説明的文章等を書く際に、相手意識・目的意識を明確にもって書くことの必然性をもたせたい。そして、字数制限も条件に入れて原稿用紙等を活用しながら徐々に字数を増やして書くことの抵抗をなくしていきたい。そのとき、文章のねじれや誤字脱字を意識した指導も重要となる。また、文章構成にはカード化して文章の配置を考えたり正しい文章とそうでない文章の比較をして書き方を学ぶモデリング学習を取り入れたり、書き手と読み手の双方向の言語活動を意識した評価カードを活用したりする手だてが考えられる。一方、形式にこだわって表現しきれていない場合には、メモを認めラフに書ける場面を増やすことによって書くことの楽しさを味わい、自信につながる活動を増やしたい。さらに、グラフを読み取りながら自分の考えや生き方について考えて書くには、例えば社会科のグラフの読み取りなどといった他教科との関連を十分考慮して指導するとともに、一つのデータから自分の考えを構築できる能力の育成を併せて指導していく必要がある。また、こうした書く能力は、書く場面を多様に設定し、ポイントを絞った指導と評価の積み重ねによって育成されていくものである。

4 まとめ

【調査結果の概要】

<全 体>

- 配当漢字の習熟をはじめとして、基本的な語彙の使い方が良く身に付いている。
- 「非連続テキスト」を含め、身近な事象から選材して自らの考えをまとめることができている。
- 漢字の訓読みを書いたり、改まった「書き言葉」の使用をしたりすることに不慣れな傾向が見受けられる。
- 文章全体を吟味して、本質を正確に把握する力がやや不足している。

<読むこと>

- 短い範囲内の段落の要旨をとらえたり、キーセンテンスを探したりする力がよく身に付いている。
- 長めの文章を短時間で最後まで読みきれない傾向が見られる。また、設問の意味を正しく理解していないための誤答も見られた。
- 文章全体や段落の内容の中心をとらえることや、段落相互の関係や構成について考えながら読み進めることが定着していないようである。

<書くこと>

- 「非連続テキスト（グラフの読み取り）」の中から適切に情報を取り出すことができる。
- 思いついたことを書き連ねることはできるが、まとまった文章を構成する力が不足している傾向も見られる。

<言語事項>

- 配当漢字の習得は良好であり、日常の使用語彙は正しく読み書きできている。
- 知識はあるが、漢字・熟語を正しく表現できない傾向も見られる。

【今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点】

- 限られた時間内に文章を正確に読み取ることが求められている。日々の指導の中で「多読・速読」することを指導計画に取り入れて、子どもたちの読む力を付けさせたい。
- 語彙の獲得のためには、辞書を引いたり読書をしたりする習慣を付けることが有効である。本市の「ノーテレビ・ノーゲームデイ」の取り組みも大切にしたい。
- PISA型読解力向上を視野に入れ、「読んでは書き、書いては話し、話したら聞く」ことを意識して、国語科の「3領域・1事項」をバランスよく計画的に指導していくことが大切である。